

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～北海道～

## 北海道の課題

○「平成29年度英語教育実施状況調査」における本道の状況は、求められる英語力を有する教員及び生徒の割合が全国と比べ低く、教員及び生徒の英語力の向上が課題である。

【求められる英語力を有する教員の割合】

中学校：目標値 …50% 全国33.6% 本道33.1% (目標との差▲16.9)  
高等学校：目標値…75% 全国65.4% 本道53.3% (目標との差▲21.7)

【求められる英語力を有する生徒の割合】

中学校：目標値 …50% 全国40.7% 本道32.8% (目標との差▲17.2)  
高等学校：目標値…50% 全国39.3% 本道37.6% (目標との差▲12.4)

## 課題解決に向けた主な具体方策

### 英語指導力アップセミナー、「TEFL理論と実践」研修講座

- ・小学校及び中・高等学校の教員を対象に、カナダ、アルバータ州立大学教授を講師としたオールイングリッシュによる研修を実施し、小学校における指導方法の工夫改善の在り方や中・高等学校における4技能を総合的に指導する授業改善の在り方、英語運用能力などの向上を図った。



### グローバル化に対応した英語指導力向上研修

- ・小学校の中核教員及び中・高等学校の全ての英語担当教員を対象に、英語教育推進リーダーを講師とした研修を実施し、コミュニケーション能力を育成する指導方法や英語運用力の向上を図った。

### 教育課程に関する協議会

- ・中・高等学校の教員を対象に、道教委が作成した手引等を活用した協議会を実施し、新学習指導要領の趣旨等を踏まえた指導方法等の工夫改善の在り方などについて理解を深めた。

### 小学校外国語活動巡回指導教員研修事業

- ・英語教育推進リーダー等を活用した「巡回指導教員研修事業」を実施し、指定校において模範授業や教員研修等の企画や教員への指導助言を通して教員の指導力と英語力の向上を図った。

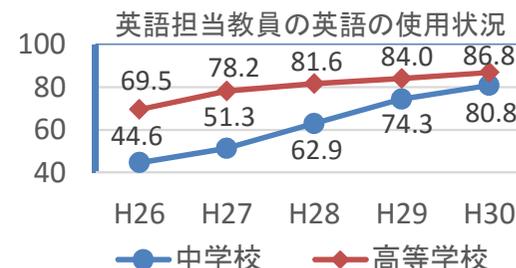
## 成果の普及

- ・小学校外国語活動巡回指導教員研修事業における指導力向上に向けた取組を道教委のWebページに掲載するとともに、研修協力校や各学校種における実践事例を学校訪問等において教員に説明を行った。

## 成果と課題

### ◎教員の英語力・指導力

- ・校外内における研修機会の充実により、小・中・高等学校の系統性を理解し、コミュニケーション能力の育成を図る効果的な実践が、多く見られるようになった。
- ・授業における、英語担当教員の英語の使用状況が中学校（発話の半分以上）及び高等学校（発話をおおむね英語で行っている）ともに向上した。



### ◎生徒の英語力

- ・外部専門機関等からの指導・助言により、実際のコミュニケーションの場面を設定した言語活動の授業が多く見られるようになった。
- ・授業における生徒の英語による言語活動時間が中学校及び高等学校（半分以上の時間）において増加した。



- 求められる英語力を有する教員及び生徒の割合は向上しているものの目標には達成していないことから、研修機会の拡充と研修内容の充実を図り、各学校段階の学びを踏まえた指導方法の工夫改善に関する取組を推進する必要がある。

# 平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～寿都町立寿都小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・パフォーマンステストとその評価の明確化
- ・大学等の外部専門機関と連携した、効果的な研修体制の確立

## 具体の取組の内容

- ・英語教育推進リーダーを活用した定期的な校内研修会の実施
- ・小・中・高等学校10年間の系統性のある指導を行うために、小・中・高等学校が連携した「寿都町小中高連携推進会議コミュニケーション推進部会」の実施
- 外部専門機関からの指導・助言に基づく研修体制の確立（胆振東部地震の影響により中止）



## 成果①

- ・校内外において研修を実施することにより、指導方法の工夫改善が図られるとともに、教員が小・中・高等学校の系統性をもった指導を意識するようになった。
- ・学級担任・英語担当等と評価基準について共通理解を図った上で、評価を行い授業後に適切だったか、評価しやすかったかどうか話し合い、次のパフォーマンステストに生かせるようにした。

## 成果②

- ・英語力をはじめ、ALTとのコミュニケーション能力の向上、異文化理解の深化が図られた。
- ・平成32年度の教科化に向けて、T1を学級担任が務める授業づくりが進められ、授業向上につながった。

## 今後の課題・方向性

- ・教員の英語力の改善が見られるが、引き続き指導内容の充実と高度化を図る必要があることから、英語力向上のためにALTと協働した研修の充実を図る。
- ・小・中・高等学校で実施するパフォーマンステストとその評価について、外部専門機関からの指導・助言をもとに改善を図る。
- ・高等学校において使用するCAN-DOリストや年間指導計画の内容及び系統性等について外部専門機関からの指導・助言を踏まえ、10年間の系統性を踏まえた指導計画の改善に係る研修の充実を図る。

# 平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～寿都町立潮路小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・学級担任が主導で授業を展開していくための環境整備や研修
- ・大学等の外部専門機関と連携した、効果的な研修体制の確立

## 具体の取組の内容

- ・英語教育推進リーダーを活用した定期的な校内研修会の実施
- ・小・中・高等学校10年間の系統性のある指導を行うために、小・中・高等学校が連携した「寿都町小中高連携推進会議コミュニケーション推進部会」の実施
- 外部専門機関からの指導・助言に基づく研修体制の確立（胆振東部地震の影響により中止）



## 成果①

- ・校内外において研修を実施することにより、指導方法の工夫改善が図られるとともに、教員が小・中・高等学校の系統性をもった指導を意識するようになった。
- ・学級担任・英語担当等と評価基準について共通理解を図った上で、評価を行い授業後に適切だったか、評価しやすかったかどうか話し合い、次のパフォーマンステストに生かせるようにした。

## 成果②

- ・英語力をはじめ、ALTとのコミュニケーション能力の向上、異文化理解の深化が図られた。
- ・平成32年度の教科化に向けて、T1を学級担任が務める授業づくりが進められ、授業向上につながった。

## 今後の課題・方向性

- ・教員の英語力の改善が見られるが、引き続き指導内容の充実と高度化を図る必要があることから、英語力向上のためにALTと協働した研修の充実を図る。
- ・小・中・高等学校で実施するパフォーマンステストとその評価について、外部専門機関からの指導・助言をもとに改善を図る。
- ・高等学校において使用するCAN-DOリストや年間指導計画の内容及び系統性等について外部専門機関からの指導・助言を踏まえ、10年間の系統性を踏まえた指導計画の改善に係る研修の充実を図る。

# 平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～寿都町立寿都中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・CAN-DOリストによる目標の明確化
- ・大学等の外部専門機関と連携した、効果的な研修体制の確立

## 具体の取組の内容

- ・CAN-DOリストを元に単元の指導計画を見直し、単元のゴールにつながる各時間の目標や内容の設定
- ・小・中・高等学校10年間の系統性のある指導を行うために、小・中・高等学校が連携した「寿都町小中高連携推進会議 コミュニケーション推進部会」の実施
- ・外部専門機関からの指導・助言に基づく研修体制の確立（胆振東部地震の影響により中止）



## 成果①

- ・校内外において研修を実施することにより、指導方法の工夫改善が図られるとともに、教員が小・中・高等学校の系統性をもった指導を意識するようになった。
- ・学級担任・英語担当等と評価基準について共通理解を図った上で、評価を行い授業後に適切だったか、評価しやすかったかどうか話し合い、次のパフォーマンステストに生かせるようにした。

## 成果②

- ・英語力をはじめ、ALTとのコミュニケーション能力の向上、異文化理解の深化が図られた。
- ・CAN-DOリストを元に単元の指導計画を見直し、単元のゴールにつながる各時間の目標や内容の設定したことで、生徒の言語能力の育成を図ることができた。

## 今後の課題・方向性

- ・教員の英語力の改善が見られるが、引き続き指導内容の充実と高度化を図る必要があることから、英語力向上のためにALTと協働した研修の充実を図る。
- ・小・中・高等学校で実施するパフォーマンステストとその評価について、外部専門機関からの指導・助言をもとに改善を図る。
- ・高等学校において使用するCAN-DOリストや年間指導計画の内容及び系統性等について外部専門機関からの指導・助言を踏まえ、10年間の系統性を踏まえた指導計画の改善に係る研修の充実を図る。

# 平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～北海道寿都高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

課題:外国語(英語)科教員の教科指導力の向上

手立て:大学等の外部専門機関と連携した授業改善の推進

## 取組の内容

- ・小・中・高等学校の教員により構成される「寿都町小中高連携推進会議コミュニケーション推進部会」における研究授業及び学習会の実施
- ・町内の小学校で行われた英語教育に係る講演会への参加
- ・外部専門機関(カナダ・アルバータ州立大学)の教授による授業見学の実施及び指導・助言 (胆振東部地震の影響により中止)

## 成果①

- ・研究授業後の研究協議を通して指導方法の工夫改善が図られた。
- ・講演に参加したことにより、現在の英語教育の動向についての理解を深めることができた。

## 成果②

- 今年度、実施した生徒の自己評価アンケート(6月、12月)において、次のような成果が得られた。
- ・「授業への姿勢が改善された」と回答した生徒の割合  
→86.6%から89.6%に上昇
  - ・「家庭学習の習慣が身に付いた」と回答した生徒の割合  
→53.9%から66.5%に上昇

## 今後の課題・方向性

- ・引き続き指導内容の充実と高度化を図るため研修の充実を図る。
- ・小・中・高等学校で実施するパフォーマンステストの内容及び評価について、外部専門機関からの指導・助言をもとに改善を図る。
- ・小・中・高等学校で活用するCAN-DOリストや年間指導計画の内容及び系統性等について、外部専門機関からの指導・助言を踏まえ改善を図る。